

「第4次生駒市男女共同参画行動計画(案)」に対するパブリックコメントにおける意見及び市の考え方

番号	意見箇所	意見の概要	意見に対する市の考え方	修正内容
1	全体	<p>①計画ではジェンダーギャップ指数を取り上げているが、世界的に見ても日本は女性の方が男性よりも幸福を感じている状態である。一つの指標を恣意的に取り上げるのではなく、多角的視点から本当に必要な支援を見出すよう努めていただきたい。</p> <p>②幸福度を指標とするのであれば、計画の「困難な問題を抱える女性に対する支援(新規)」で救うべきは女性ではなく男性ではないか。ともあれ差別を止めるという大前提に立てば性差関係なく男女とも支援すべきであり、女性だけにフォーカスすることは男性に対する差別である。</p> <p>③米国では過度なジェンダー配慮を止める動きも注視し、柔軟に変更できる計画としてくれることを望む。</p> <p>参考:「日本はジェンダーギャップ125位」をそのまま受け取ってはいけない…「指数」が反映しきれない現実の世界 https://president.jp/articles/-/71137?page=1</p> <p>参考:世界120位「女性がひどく差別される国・日本」で男より女の幸福感が高いというアイロニー https://president.jp/articles/-/44903?page=1</p> <p>参考:LGBTや女性の取締役選任ルールは「無効」米企業で「過度」の多様性見直し進む https://www.sankei.com/article/20241220-4BKVPASUAZMQDDYHJT5JBVBQ4/</p>	<p>①ジェンダーギャップ指数は国際的な課題認識を共有する上での一つの指標として活用しております。これからも、多角的な視点から施策の必要性を見極め、さまざまなデータや研究結果を踏まえた計画を策定し、その実行に努めます。</p> <p>②「困難な問題を抱える女性への支援」に関する施策につきましては、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の規定に基づき策定する市町村基本計画として位置づけるものです。多様性を尊重し、性別、年齢、国籍や障がいの有無などにかかわらず、全ての人が受容され差別されることなく活躍できるダイバーシティへの転換期の課題等を解消する方策のひとつであると考えています。今後も、社会情勢の変化など様々な状況もふまえつつ、適切かつ柔軟に取り組んでまいりたいと考えています。男性に対する施策についても、基本目標Ⅲ 基本方針5 施策の方向⑩の「本人の希望やライフステージに応じた働き方の実現」における施策の内容について取り組んでいきます。(P49)</p> <p>③国内の動きはもとより世界の動向も注視しつつ、P5の計画期間のただし書きにありますとおり、社会情勢の変化や計画の進捗状況に応じて柔軟に計画を見直してまいります。</p>	<p>①原案のとおりとします。</p> <p>②多様性を尊重するために、一人ひとりの多様な個性が認められることを目指し、P36の基本目標1の文章中に「一人ひとりの多様な個性(ダイバーシティ)が認められるとともに、」を追加し、P46基本方針4【施策の概要】文中の「多様性」を「ダイバーシティ」に変更します。</p> <p>③原案のとおりとします。</p>